

一〇一五年一月二三日

電線に大集合す秋燕
且散りて水面に錦織る紅葉
総玻璃のビル一面に小春空
古書簡の整理の遅々と冬座敷
神馬の背撫せて且つ散る紅葉かな

一〇一五年一月一八日

よし女
咲き続く葬に飾りし冬薔薇
力石操つてゆく小灰蝶
冬日和玉砂利踏みて夢殿へ
風一陣色葉吹雪の西の丸
枯山水庭へ且つ散る紅葉かな

一〇一五年一月二二日

夕日背に銀杏拾ふ影法師
散る色葉友禅流しめきし池
街路樹の枯葉高舞ふ摩天樓

一〇一五年一月一七日

わたる
眼のつぼを押してまどろむ縁小春
黄落のトンネル櫻並木ゆく
芋煮会同窓集ふ廃校舎

せいいじ
かかし
かかし
わたる
わたる
澄子
かかし

一〇一五年一月二〇日

陋屋を明るうしたる石蕗の花
温かき日を背に享けて畠仕事

一〇一五年一月一六日

こすもす
少年野球の甲高き声霧の朝
金色の日を翻し銀杏散る

むべ
むべ
むべ

喪の日々はホ旬が慰め落葉踏む

ほたる
せいじ

一〇一五年一月一九日

葬送の日々を香りて金木犀

あひる

雪靄に仄と点るは無人駅
小春雲ひつかかりたる城の鯢

やよい
ほたる

毎日句会みのる選・一〇一五年一月二十四日